

鹿児島県での「緑茶」の輸出状況

～～2025年は過去最高の見込み～～

0 はじめに

鹿児島県は静岡県と並ぶ全国主要な「茶」の生産地であり、2024年、鹿児島県の生産量は初の全国第1位となりました。

政府は、農林水産物・食品の輸出額を2030年までに5兆円にするとの目標を設定しており、当該目標の中で「茶」は「牛肉」などと同様に輸出重点品目に定められています。

また、鹿児島県でも「鹿児島県農林水産物輸出促進ビジョン」を定め農林水産物の輸出促進を図っており、当該ビジョンにおいても「茶」は重点品目に定められています。

健康志向の高まりから「緑茶」の需要が世界的に高まっています。政府や鹿児島県では「茶」の輸出促進に取り組んでいることから、「緑茶」の輸出状況について調査しましたのでお知らせします。

調査対象の輸出統計品目番号

09.02	茶（香味をつけてあるかないかを問わない。）
0902.10	—緑茶（発酵していないもので、正味重量が3キログラム以下の直接包装したものに限る。）
100	—粉末状のもの
900	—その他もの
0902.20	—その他の緑茶（発酵していないものに限る。）
100	—粉末状のもの
900	—その他もの

※本資料では、

0902.10-100及び0902.20-100の合計を「粉末」

0902.10-900及び0902.20-900の合計を「その他」

と表記しグラフ化しています。

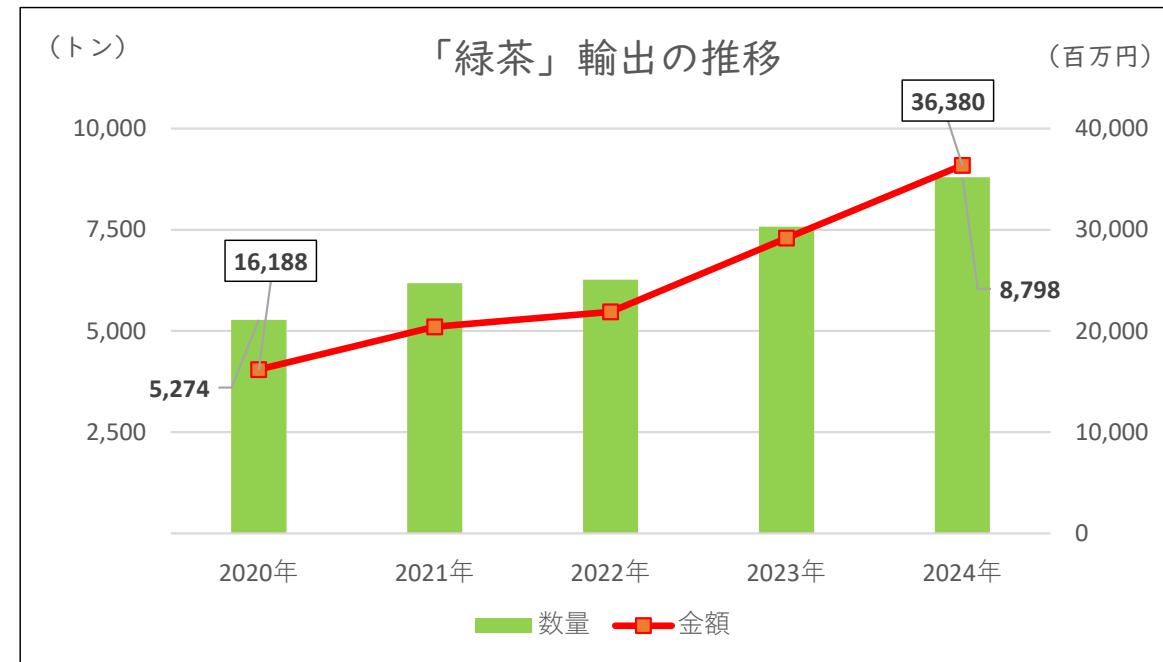
～～もくじ～～

1	全国分 「緑茶」の輸出状況（概要）	3
2	全国分 「緑茶」の輸出状況（詳細）	4
3	全国分 主要仕向国別輸出状況（2024年実績）	5
4	税関別輸出状況（2024年実績）	6
5	九州圏内に所在する税関官署別輸出状況（2024年実績）	7
6	鹿児島県内分 「緑茶」の輸出状況～2025年は過去最高の見込み～	8
7	鹿児島県内分 「緑茶」の仕向国別輸出状況	9
参考	主要生産地における都道府県別の「荒茶」生産量	10

I 全国分 「緑茶」の輸出状況（概要）

2020年～2024年における全国での「緑茶」の輸出の推移は下グラフのとおりで、2024年の輸出額は363億80百万円、輸出数量は8,798トンであり、2020年に比べ輸出額は約2.2倍、輸出数量は約1.7倍に増加しています。
なお、下グラフは「0902.10」号及び「0902.20」号を合計した実績となっています。
「粉末」及び「その他」の詳細な実績は次ページに示します。

	数量 (トン)	金額 (百万円)
2020年	5,274	16,188
2021年	6,179	20,418
2022年	6,266	21,891
2023年	7,579	29,186
2024年	8,798	36,380

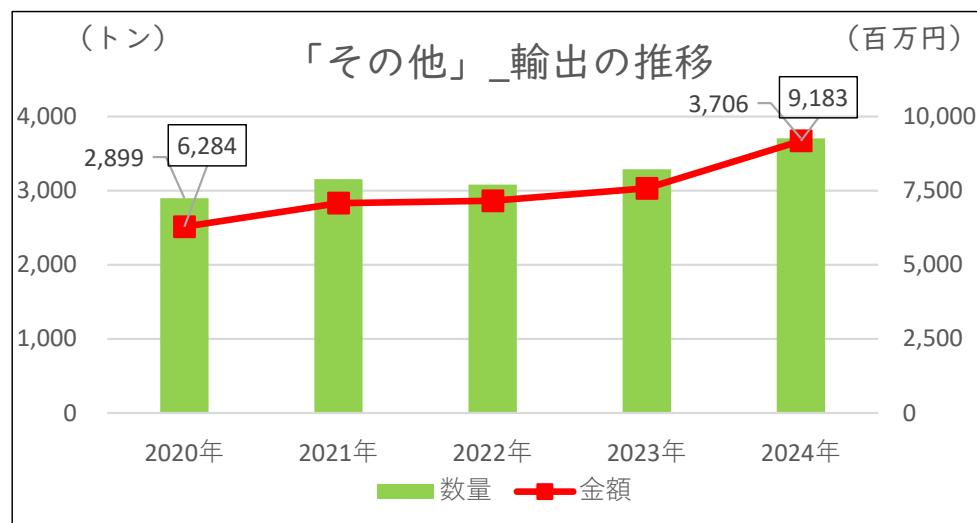
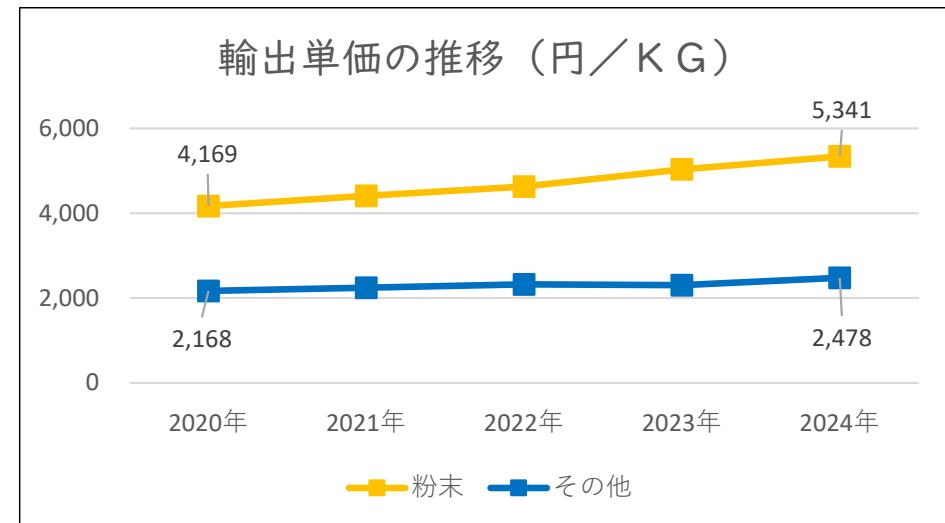
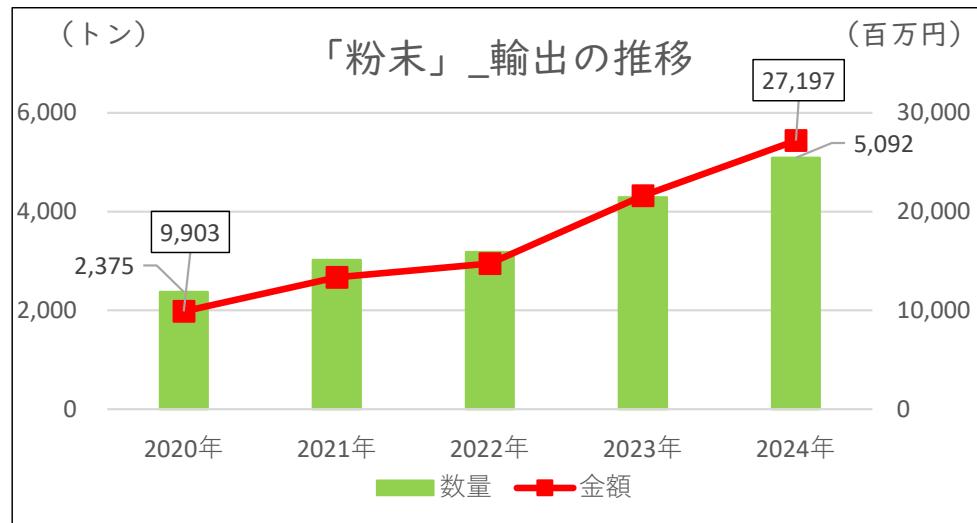


2 全国分 「緑茶」の輸出状況（詳細）

2020年～2024年における全国での「緑茶」の輸出状況は下左側グラフのとおりであり、輸出数量・金額ともに増加しています。

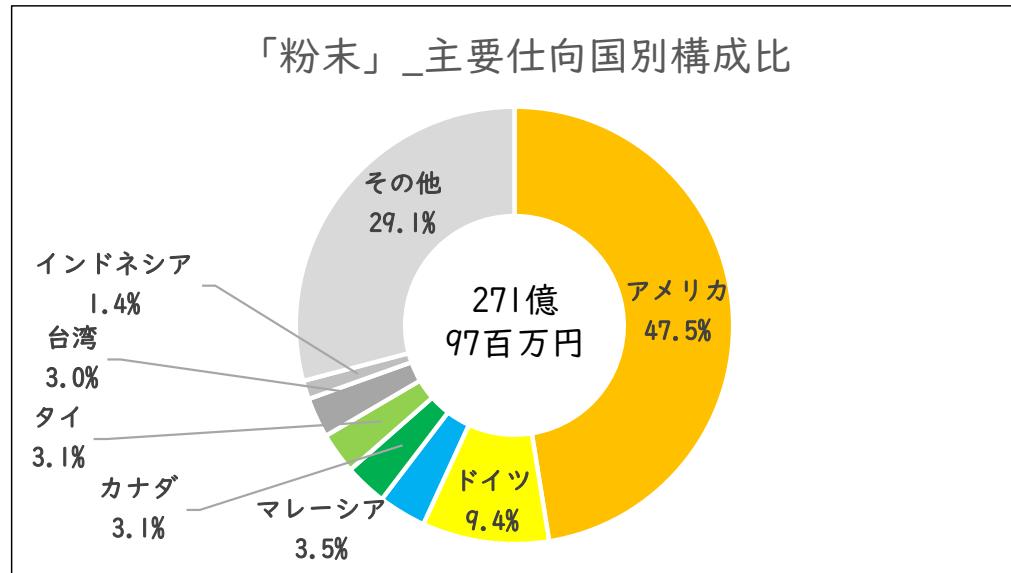
2024年における「粉末」の輸出実績は、271億97百万円（5,092トン）であり、2020年に比べ金額は約2.7倍、数量は約2.1倍と大きく増加しています。

また、「粉末」及び「その他」の輸出単価の推移は右側グラフのとおりであり、「粉末」が高価となっています。

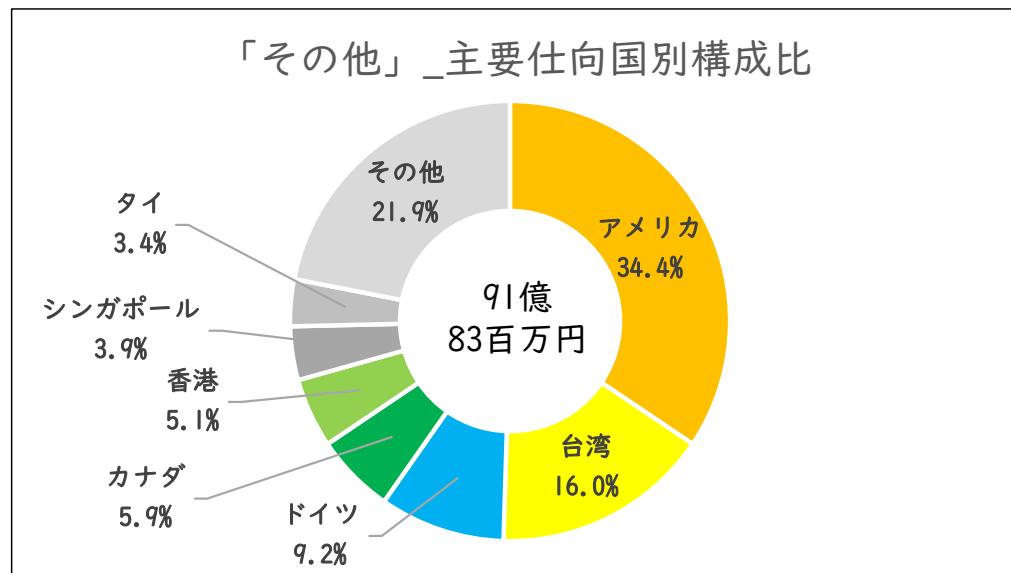


3 全国分 主要仕向国別輸出状況（2024年実績）

2024年における全国での「緑茶」の主要仕向国別輸出額は下のグラフ及び表のとおりです。
欧米向けはアメリカ、ドイツ、カナダなどへ、アジア向けは台湾、マレーシア、タイ、香港などへ輸出されています。



国名	輸出額(百万円)
アメリカ	12,907
ドイツ	2,553
マレーシア	960
カナダ	854
タイ	832
台湾	805
インドネシア	373
その他	7,912
合計	27,197



国名	輸出額(百万円)
アメリカ	3,162
台湾	1,474
ドイツ	847
カナダ	539
香港	469
シンガポール	361
タイ	316
その他	2,015
合計	9,183

4 税関別輸出状況（2024年実績）

2024年における税関別の「緑茶」の輸出数量・輸出額は下表のとおりです。

第1位は名古屋税関で154億43百万円（4,134トン）、次いで大阪税関が83億79百万円（1,638トン）、第3位は東京税関で50億57百万円（1,055トン）で第3位となっています。

※数量単位はトン、金額単位は百万円

	粉末		その他		合計	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額
東京税関	756	3,926	299	1,131	1,055	5,057
横浜税関	594	3,032	202	456	797	3,487
神戸税関	447	1,940	276	742	723	2,682
大阪税関	952	6,409	686	1,970	1,638	8,379
名古屋税関	2,204	10,941	1,930	4,501	4,134	15,443
門司税関	130	897	100	246	229	1,143
長崎税関	9	39	212	134	221	173
函館税関	0	0	1	3	1	3
沖縄地区税関	1	13	—	—	1	13
合計	5,092	27,197	3,706	9,183	8,798	36,380

（注1）端数処理のため合計が一致しない場合があります。

（注2）数値の「0」は単位未満を表しています。



5 九州圏内に所在する税関官署別輸出状況 (2024年実績)

2024年における九州圏内に所在する税関官署別の「緑茶」の輸出数量・輸出額は下表のとおりです。

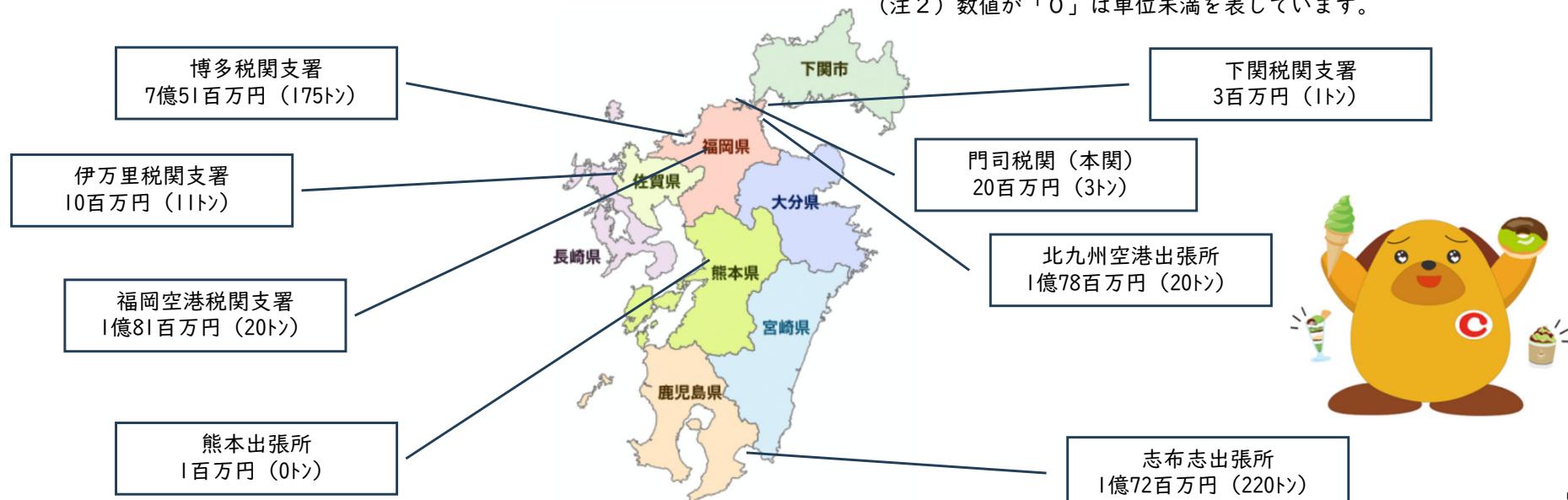
鹿児島県内では、志布志出張所で輸出実績があり輸出額は1億72百万円となっています。なお、輸出数量は220トンで九州圏内第1位ですが、単価が高い「粉末」が少ないため輸出額は低迷していると思われます。

※数量単位はトン、金額単位は百万円

	粉末		その他		合計	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額
門司税関 (本関)	2	14	1	6	3	20
博多税関支署	93	562	82	189	175	751
福岡空港税関支署	16	158	4	23	20	181
北九州空港出張所	18	161	2	17	20	178
下関税関支署	0	2	1	1	1	3
伊万里税関支署	—	—	11	10	11	10
熊本出張所	0	1	—	—	0	1
志布志出張所	9	38	212	134	220	172
合 計	139	936	311	380	450	1,316

(注1) 端数処理のため合計が一致しない場合があります。

(注2) 数値が「0」は単位未満を表しています。

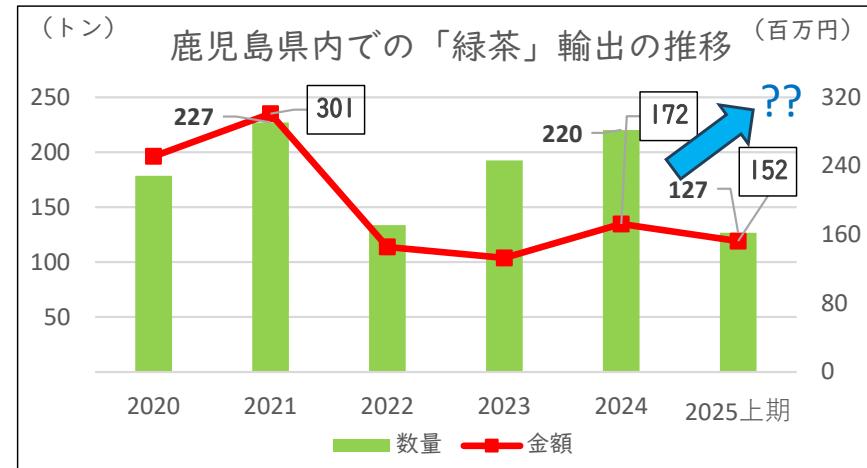


6 鹿児島県内分 「緑茶」の輸出状況 ~2025年は過去最高の見込み~

2020年～2024年における鹿児島県内での「緑茶」の輸出状況は右グラフのとおりです。

2021年は輸出額が3億01百万円、輸出数量は227トンであり、いずれも過去最高となっています。

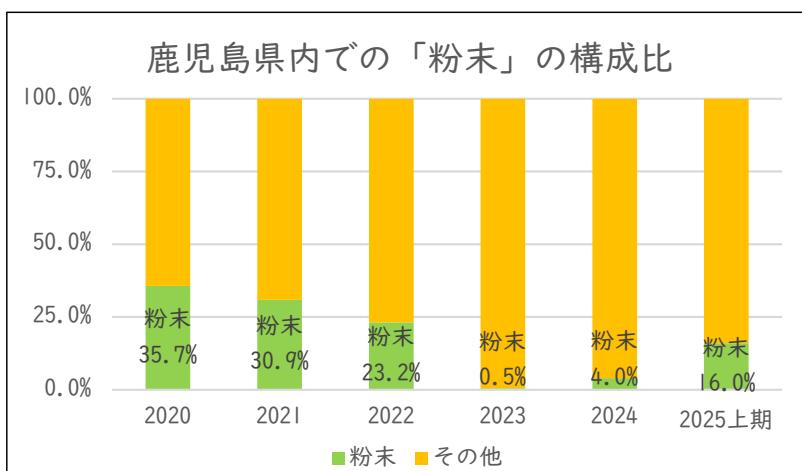
2025年上半期の輸出額は1億52百万円、輸出数量は127トンとなっており、過去最高だった2021年の輸出実績を上回る状況です。



鹿児島県内での官署別輸出の推移等

鹿児島県内に所在する税関官署別の輸出状況は右表のとおりです。

また、鹿児島県内での輸出数量に占める「粉末」の割合を下グラフに示しています。2023年にかけて減少したものの、その後増加しています。

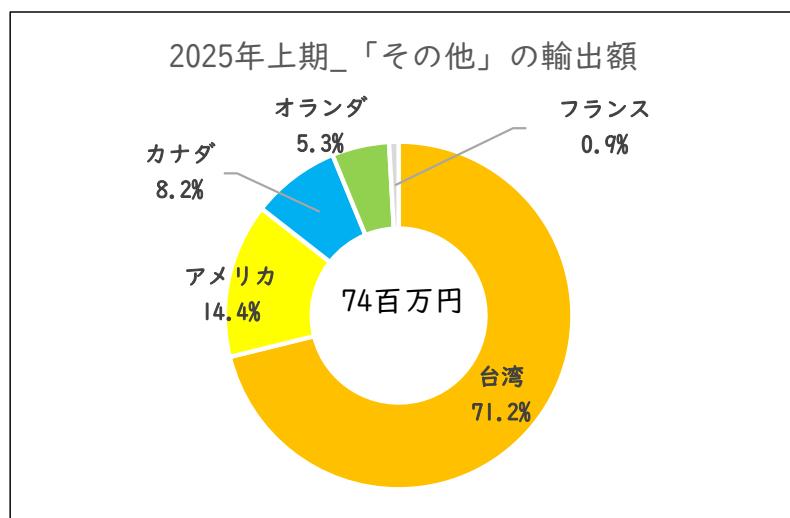
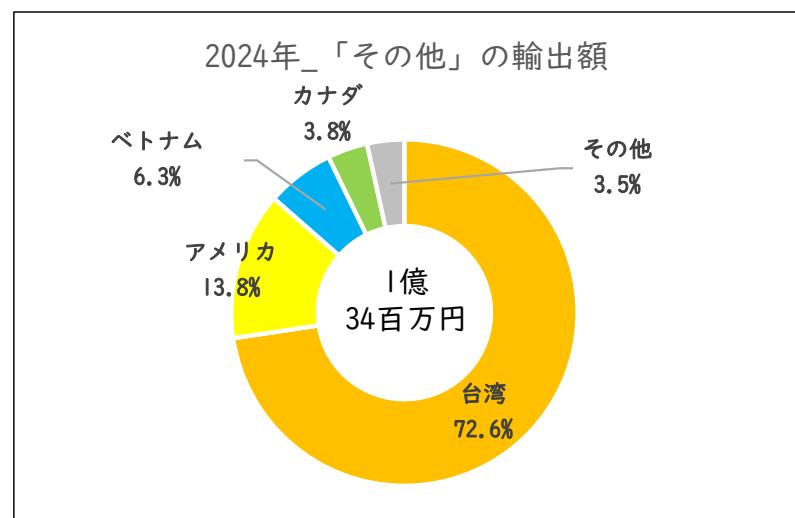
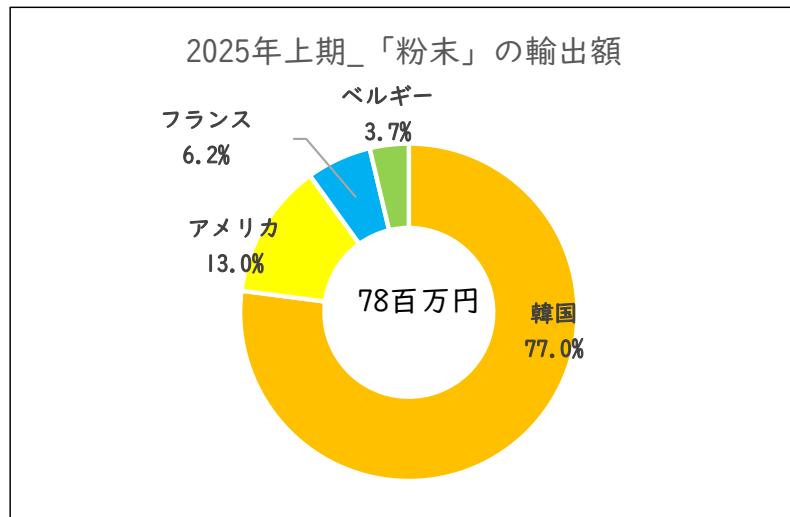
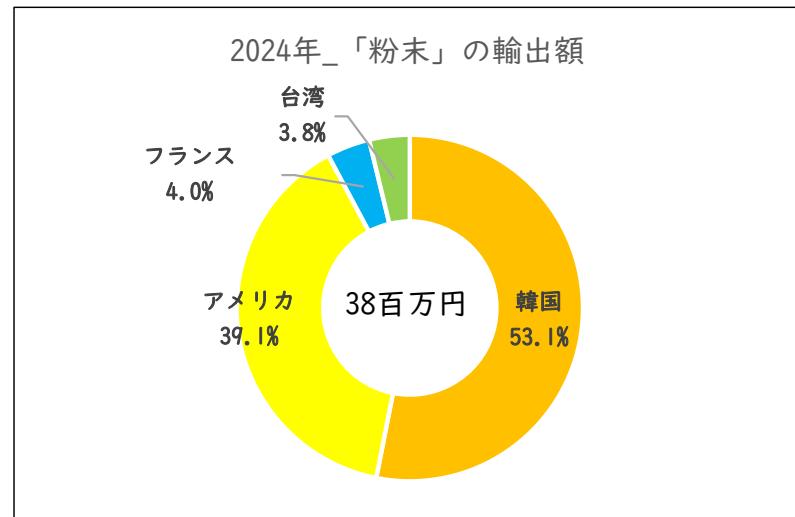


		2020	2021	2022	2023	2024	2025上期
鹿児島税関支署	粉末	1	9	1	0	—	—
	金額	7	32	8	4	—	—
	その他	8	51	6	48	—	—
川内出張所	金額	22	56	19	47	—	—
	小計	9	60	7	49	—	—
	数量	29	88	28	51	—	—
志布志出張所	粉末	26	—	—	—	—	—
	金額	54	—	—	—	—	—
	その他	88	—	—	—	—	—
鹿児島県内合計	金額	53	—	—	—	—	—
	小計	113	—	—	—	—	—
	数量	108	—	—	—	—	—
	粉末	37	61	30	1	9	20
	金額	100	159	71	4	38	78
	その他	19	106	97	143	212	106
	金額	15	54	47	77	134	74
	小計	56	167	127	144	220	127
	数量	115	213	118	82	172	152
	粉末	64	70	31	—	9	20
	金額	162	191	80	8	38	78
	その他	115	157	103	192	212	106
	金額	90	110	66	125	134	74
	合計	179	227	134	193	220	127
	数量	251	301	146	133	172	152
	金額	—	—	—	—	—	—

7 鹿児島県内分 「緑茶」の仕向国別輸出状況

2024年及び2025年上期における鹿児島県内での「緑茶」の輸出について、仕向国別の輸出状況は下グラフのとおりです。

近隣国である「韓国」「台湾」への輸出が多くを占めており、「アメリカ」「フランス」などの欧米へも輸出されています。



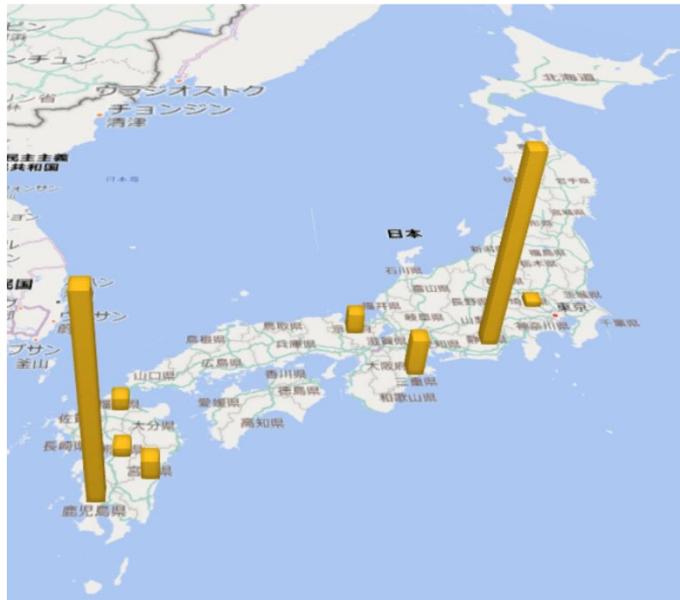
「参考」 主要生産地における都道府県別の「荒茶」生産量

国内での「荒茶」の生産は「鹿児島県」と「静岡県」が2大生産地となっており、これに、「三重県」、「京都府」、「宮崎県」などが続いています。

2024年の都道府県別生産量は、下表のとおりであり「鹿児島県」は「静岡県」を上回り、初の全国第1位となりました。

※農林水産省作物統計「令和6年産工芸農作物の収穫量」より

主要生産地 (都道府県名)	生産量 (㌧)
埼玉県	838
静岡県	25,800
三重県	5,020
京都府	2,780
福岡県	1,650
熊本県	1,200
宮崎県	2,640
鹿児島県	27,000
その他	6,972
合 計	73,900



- ※ 本資料において、鹿児島県内の貿易額は鹿児島税関支署、同川内出張所、同志布志出張所、同鹿児島空港出張所及び同枕崎出張所が管轄する区域に蔵置された貨物の通関額としています。
- ※ 統計数値は、2023年までは確定値、2024年は確々報値、2025年以降は確報値です。
- ※ 統計数値の単位未満は、四捨五入を行っているため、総数の内訳の計が一致しない場合があります。

本資料に関する問い合わせ

長崎税関 鹿児島税関支署 統括審査官
電話 099-260-3109 (直通)
メール nagaasaki-kagoshima1@customs.go.jp

〒899-0862 鹿児島市南栄5丁目10番5号
長崎税関ホームページ <https://www.customs.go.jp/nagasaki/>



※本資料を他に転載する時には、長崎税関鹿児島税関支署の資料による旨を必ず注記して下さい。